

11・1集会に世界の労組から連帯メッセージ

コロナ分断うち破り国際連帯闘争の前進を

実行委員会と動労千葉国際連帯委員会が今年の11・1労働者集会アピールを世界の95個人・団体に発信しました。例年以上の広範かつ熱い連帯のメッセージが寄せられています。以下紹介します。

* Network Rail Without Border (国境なき鉄路)

動労千葉が2009年7月のサンフランシスコゼネスト75周年集会で出会った「Sud Rail / フランス-鉄道連帯」から『「国境なき鉄路」の構成団体は日本の同志たちから寄せられたアピールを支持し賛同する』とのメッセージ。「国境なき鉄路」構成団体は、欧州・アフリカ・中東・アジアから南北アメリカで活動する86労組・団体で、ブラジルのCSP-ConlutasやイタリアのSI-Cobas、RMT、IWWなども含まれる。

* イタリア SI Cobas (職場委員会連合)

イタリア北部工業地帯はコロナ・パンデミックの直撃を受け多数の死者が出る中、多くの労働者が工場操業の停止を求めストライキに立ちあがった。組合破壊にのめりこむ物流企業FedEx/TNTに対し職場占拠で闘うSI Cobasと5月6日、Skypeを使ったネット会議が行われた。SI Cobasから「私たちは、11・1集会への支持を表明すべく、代表者の日本派遣を全力で追求します」とのメッセージが寄せられ、日本からのアピールのイタリア語訳がSI Cobasのウェブサイトに掲載された。

* アメリカ RWU (鉄道労働者連帯)

RWUは、米国初の産別労組である鉄道労組の創設者ユージン・デプスの言葉「われわれは同じ立ち位置にある。互いに信頼し団結せねばならない。団結せねば何事も成すことはできず、団結すれば不可能なことはない」を添えて『RWU運営委員会は11・1集会への賛同を決議した』とのメッセージ。

RWUの一員である都市交通労組シカゴ支部のエレック・スレーターさんたちが2016年11月集会に参加して以来、RWUとは連帯関係が続いている。

エレックさんは5月31日に支部を代表してBLM運動弾圧のための警察部隊のバス輸送を拒否したことでシカゴ市当局に解雇された。動労千葉は直ちに解雇撤回への支援声明を送り、共に闘っている。

* 国際港湾倉庫労働組合 (ILWU)

2003年、動労千葉が国際連帯に踏み出したときの交流の相手方が米ILWUと韓国民民主労総だ。以降18年間、



現場をベースに顔の見える血の通った国際連帯が堅持されている。

そのILWUが9月15日、「警察テロと体系的人種差別を許さない闘争宣言」を発し6月19日に西海岸全港封鎖のストライキに立った。トランプ大統領は軍隊投入でスト破壊を画策した。

宣言は、この攻撃を打ち破るため「全労働者は差別・排外との闘いの最前線に立たねばならない」「巨大なストライキを組織するため労働者階級の闘うネットワークをつくり出そう」と訴えている。

* ブラジル CSP-Conlutas (全国闘争連盟)

2009年のサンフランシスコゼネスト75周年集会での出会いと2010年6月の大会への参加以来、ブラジル・コンルータスとの連帯関係が続いている。

「ブラジルのトランプ」と呼ばれるボルソナロ大統領は、コロナ感染拡大を放置し、大量解雇と規制緩和による労働権の破壊に突き進んでいる。

11・1集会への連帯メッセージには、ブラジル金属労組委員長ヘルベルト・クラロスさん以下、79労組・団体が名を連ね、11・1集会と1047名解雇撤回への連帯を表明している。

※ ※ ※

新型コロナウイルスによるパンデミックは、新自由主義の矛盾を臨界点にまで押し上げた。社会保障、医療、教育、運輸など社会の有機的な存在を支えるシステムをことごとく食いつぶし、民営化・外注化・非正規職化を極限まで推し進め、効率・利益のみを追求するその実像が世界中で露わとなっている。

このことは同時に、現場で汗を流す労働者こそがこの社会を動かす主体であることを満天下に明らかにし、世界の労働者の自信と核心に転化している。

今や、まさに「(International Workers' Solidarity Matter!)」なのだ。